学校現場から　中学校

コロナウイルスの中で生きる学校

小林　朗

1　生徒の声が校舎内に聞える

○僕は2年生の途中から部活に入って、大会に出たことがなかったので、市内大会でみんなと県大会に出ようとがんばっていた矢先のできごとだったので、とてもショックでした。学校も分散登校になり、クラスの半分と会えなくなり修学旅行も場所が変わってしまったり、運動会縮小されたりなど、思い通りに行かないことがたくさんありました。

しかし、外出自しゅくによって、家族のいる時間が増え、今まで忘れていた家族との時間を大切にするということも思い出にさせてくれました。

でも、どちらかというと、良かったことより悲しいことの方が多かったので、これからある一つ一つのことを大切にしながら生きたいです。

○学校が長い間休みになって友達とたくさん遊べたのがよかった。

運動会が短縮されたのが悲しかった。給食のとき、みんなと話せないのが悲しかった。大会がたくさんなくなったのがかなしかった。昼休み、バスケットボールで試合ができないのが悲しかった。修学旅行で東京から県内になったのが悲しかった。行動がたくさん制限されてつらかった。志村けんが死んで悲しかった。

○修学旅行、東京だったのに山梨になってまあいい

かって思っていた時に、新潟になってすごく悲しかったです。分散登校も友だちとはなれてしまったので悲しいこともあったけど、新しい友だちができたので、それはよかったかなと思っています。運動会も中学校生活最後なのに、軍全体で協力することがなくて悲しかった。ずっとマスクをつけてるからはだがあれることが困っています。

○運動会の応援で声がだせない、競技が減ったこと、修学旅行で県外にいけなかったこと、部活で中学最後の吹奏楽コンサートがなくなったことは悲しかった。

休みが多くて家でスマホやゲームばかりしてしまったこと、生活習慣（おきる時間、ねる時間）がみだれたこと、運動不足、視力不足になったことは困った。

家族といる時間が増えて会話が増えたこと、コロナの状況でも、よりよいイベント（運動会や修学旅行）にしようと学年が一つとなって協力できたことはよかった。

○中途半端にオンラインでやろうとして、結局、トラブルなどで上手く行われなかったことがあったので、やるなら、今まで通りやるか、致命的なトラブルがないようにやってほしいと思いました。授業中まで、ずっとマスクを着用するのはどうかと思いました。

○日常生活では、制限がたくさんあって、夏のあついときにクーラーで涼しくしているのに、窓をあけてかんきしないといけないのでクーラーをつけてもあついのがいやでした。

あと、前期に学校にくるのが少なかったので、まだ前期がおわる気がまったくしなくて、これら夏休みっていい気分でした。中学生活ながくなってほしいです。

自分の顔面が調子のわるいとき、毎日マスクしてるので目しかみえないので、マスクがあってよかったと思います。

激励会とか体育館で体育すわりしないで、教室でイスにすわってつかれないので良かったです。

○高校に行ったら、今の友達とあまり遊べなくなってしまうから、少しでも多く遊んでおきたいと思ったのに、コロナが心配で休日に遠出ができない。授業日数がギリギリで、美術や家庭科の作品が終わらない。

○友達や家族などと大型ショッピングモールにいけないので、おこづかいがたまる。手洗いが身についたのはよかった。

運動会で声が出せない。中学最後のかんばら祭りが中止。思うように遊びに行けない。マスクがたまに暑い。夏休みが少し短かったことは悪かった。

これらはうちの学校の3年生がコロナウイルス対策の中で感じた学校生活を中心とした感想である。

生徒たちは行事の削減や分散登校などで、ストレスをためていることがわかる。1日中、マスクの生活に対しても多くの意見が書かれている。マスクに対する意見を中学生が書くことは新鮮な視点だった。

コロナウイルス対策の中で、否定的な面だけでなく、中学生は前向きな意見も書いている。

よかったこととして、家族との交流をあげている生徒はいたが、学校生活や友人の関係で悲しかったことの方が多かったと中学生は結論づけている。今までの日常生活ができないことで、中学生たちがストレスをためていることは事実であった。

2　授業時数確保の大号令

新潟市教育委員会は今年度の授業時数の遅れは、今年度中に取り戻せという大号令をあげた。

突然の臨時休校が4月23日から5月8日まであり、5月11日から29日まで分散登校を行った。

新潟市教育委員会は、分散登校での午前、午後各3時間の授業は授業時数に入れないことにした。

そのため、本校では、休校と分散登校で119時間の授業時数が削減された。中学校は週29時間なので、だいたい4週間、1か月間授業が足りないことになった。授業時数を確保するために対応が迫れた。

コロナに対する不安で登校しない子どもへ配慮もあったが、なぜ、新潟市教育委員会は、分散登校の1日3時間の授業を授業時数に入れなかったのかは疑問である。分散登校は15日なので、45時間の授業時数が確保されることになる。

各学校では、授業時数確保の対応に翻弄される。夏休みを削減し、7月末までや8月の第1週まで授業をする学校、40分授業で1日7時間の授業をする学校も出てきた。

しかし、9月に入ると、各学校の教員から、「例年以上に授業は進んでいる」という声が聞え始めた。

なぜなのだろうか。本校の授業についてみてみたい。

その要因の第一は、例年ある学校行事が中止になったことがあげられる。本校ではマラソン大会、部活動の市内大会、校外研修、職場体験などで55時間の授業時数が確保された。

次に、総合的な学習をまとめ取りにしている関係で、10月から各週1時間、授業を設けた。28時間の授業時数が確保された。

第三に、本校は7月末まで授業を行い、8月の始まりを1日早めて、夏休みを削減したために、25時間の授業時数を確保した。

先述した本校の授業時数の欠課が119時間なので、差し引きすると、11時間だけ足りないことになる。分散登校で授業を行っているので、45時間から11時間を差し引くと、31時間の授業時数が本校では多くなっていることになる。

つまり、授業時数が足りないというほどではないことになる。各学校もだいたい同じ状況であるから、7時間授業などをしている学校は授業時数は相当、多いことになる。授業時数が足りないのは事実でない。

3　コロナ対策が教えたこと

分散登校は各学校とも、午前、午後にクラスの生徒を半分に分けて登校させて授業を各3時間同じことを行った。教員は2回、同じ授業をしたが、不満以上に肯定的な意見が多かった。

生徒数が15人から20人程度だったために密にならず、教室がゆったりと使用できた。いつもなら、元気のよい生徒だけに声をかける教師が、静かな生徒にも声をかけることができた。

教師が20人程度の少人数学級のよさを実体験した。生徒に目がゆきとどくのである。

行事が中止や削減になって、必要のない行事に教師が気がついたのである。また、運動会は午前で終わる学校が少なくなかったが、「毎年、午前中の運動会でいいのではないか」という声があがっている行事もあった。各学校の教育課程を見直す機会となったのである。

（こばやし　あきら・新潟市中学校）